

## 令和元年度 第1回子ども・子育て会議 会議録

- ・ 開催日時 令和元年5月15日（水）午後1時30分～午後3時
- ・ 開催場所 燕市役所 会議室401
- ・ 出席委員 高山淑充委員、関戸麻衣委員、玉橋明子委員、長谷川聡委員、若林美紀委員、星野直弥委員、瀬戸明委員、田邊良文委員、宮路絵里委員、小池由佳委員、田中喜代子委員、本間いずみ委員
- ・ 欠席委員 西川志郎委員、鈴木久美子委員、富樫麻樹子委員
- ・ 事務局 遠藤教育長、宮路教育次長、白井子育て支援課長、小林指導主事、加藤課長補佐、高山課長補佐、大西副参事、大塚副参事
- ・ 会議次第
  - 1 開会
  - 2 教育長あいさつ
  - 3 会長あいさつ
  - 4 委員紹介
  - 5 議 題
    - (1) 子育て支援事業の概要と進捗状況について
    - (2) 第2期燕市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査について
    - (3) 第2期燕市子ども・子育て支援事業計画（案）について
  - 6 報 告
    - (1) 幼児教育・保育の無償化について
  - 7 その他
  - 8 閉 会

### 1 開会

〈事務局より開会のあいさつ〉

### 2 教育長あいさつ

- 令和元年度 第1回「燕市子ども・子育て会議」の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。
- 今年度は、委員15名のうち、約3分の1にあたる6名に欠員が生じたため、新たに6名の委員を委嘱させていただいたので、よろしくお願ひしたい。
- この子ども・子育て会議は、子ども・子育て支援法及び燕市子ども・子育て会議条例に基づく審議会で、学識経験者、事業主の代表、労働者の代表、子育て当事者や子育て支援事業従事者などから構成されている。燕市における子どもや子育て家庭の実情を踏まえて、委員それぞれの立場からご意見をいただきながら、子育て支援事業の実施を担保することが重要な役割となっている。
- 今年度の大きな柱のひとつは、平成27年度から実施してきた、現在の「子ども・子育て支援事業計画」が今年度で5年間の計画期間が終了することから、来年度（令和2年度）からの5年間の計画期間とする“第2期”の新たな「子ども・子育て支援事業計画」を策定していただくことである。
- この子ども・子育て支援事業計画は「輝く未来へ！笑顔あふれる 子育てのまち つ

ばめ」を基本理念としており、燕市の未来を担う子どもたち、子育てをする親たちが安心して生活でき、子育て支援が充実した“まち”を目指すものとなっている。

- また、放課後児童クラブや病児・病後児保育事業などをはじめとした様々な課題に対応する子ども・子育て支援事業についても、この計画に反映させ、今後の子育て支援環境の充実に向けて、一步ずつ着実に進めていきたいと考えている。
- 委員の皆様方には、各分野で培われた専門性や日常お子さんと接しているご経験などを踏まえたご意見を賜りながら、ご協力をお願い申しあげて私の挨拶とさせていただきます。

### 3 会長あいさつ

- 皆さん、こんにちは。会長を務めさせていただいている新潟県立大学人間生活学部子ども学科教授の小池と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
- 昨年度から引き続き委員を引き受けてくださった皆様、今回から新しく委員になられた皆様、一緒に1年間会議を運営していくこととなります。継続の委員には、前年度どのような議論があったかを踏まえながら、また、今年度からの新規の委員には、燕市で子育てをされている状況について、あるいは子育て家庭の状況等について、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたい。
- 第2期の計画づくりは前回の計画をベースにつくっていくことになる。子どもや子育て家庭をめぐる環境は日々変わってきている。5年前に作ったものがそのまま使える部分があれば、新たな課題が見えてきたり、これから燕市として力を入れていかなければならないことなども含めながら、この計画づくりを進めていく。1年間という長丁場の計画づくりになるが、会の運営と皆様の積極的なご発言をどうぞよろしくお願いいたします。

### 4 委員紹介

〈事務局から、新任委員も含めて委員名簿に沿って一人ずつ紹介〉

### 5 議題

#### (1) 子育て支援事業の概要と進捗状況について

〈事務局から資料1の説明〉

〈質疑応答〉

(会長)

委員の皆さまから質問や意見はないか。

(委員)

利用者支援事業について、母子保健型の相談件数がだんだん増えて、支援プランの作成件数が平成30年度は74件になっている。具体的にどのような相談があるのか。また、継続的な利用で成果は上がっているか。

(事務局)

➤ 具体的な相談内容については把握していないが、相談件数が増えている状況は担当から聞いて確認している。

(会長)

利用者支援事業を実施されている事業所の委員から、説明していただけるか。

(委員)

- ▶ 赤ちゃんが生まれ、養育に困って不安を抱えており、自宅で一人で養育が難しいと思った場合には一時保育や子育て支援センターにつながっている。基本型は、概ね保育園に上がってから、集団の中で他の子と比べて発達が遅れているようだというときに相談にのったり、療育の利用につながったりしている。また、利用者支援事業は、ワンストップで適切なおところにつなげるのが目的なので、不安を受け止めて適切な機関や窓口につなげることで利用者が増えているので、成果はあると思っている。

(委員)

ファミリー・サポート・センター事業について、利用件数が減ってきている。平成30年度は周知を行った結果、少し増加したとあるが、以前と比べると利用者数が減っていると思う。どのような周知をしているのか。減少している原因は何かわかっているか。

(事務局)

- ▶ 育児相談会や健診時にコーディネーターがチラシを配布している。一時保育や園の延長保育、病児・病後児保育などの保育サービスが充実してきており、保護者の選択肢が増えたことが数字に表れていると思っている。ファミリー・サポート・センター事業は、選択肢が複数ある保育サービスの中で、それを補完する役割を持っていて、今後も重要な役割を担っていくものと考えている。

(会長)

提供会員の人数が減っていることはないか。ファミリー・サポート・センター事業は、マッチングがうまくいかないと、利用につながらない面があるので、提供会員の層を厚くしておかないと利用が増えていかない。

(事務局)

- ▶ 提供会員を増やしていくことが利用者を増やしていくことにつながる。年齢層については、高齢の方ばかりでなく、依頼会員と提供会員の両方会員もいるので、増やす対策を練っていく必要がある。

(委員)

4月1日の待機児童はいるか。また、今現在はいるか。

(事務局)

- ▶ 4月1日時点の待機児童はいない。今現在も、待機児童はいない。

(委員)

私は、入園できる園を探している方を3人知っている。電話なので、直接、お会いしたことはないが、情報はわかりやすいほうがいい。燕市内には、無認可の企業主導型保育園が1園、小規模保育事業が1園あるが、キャパに対する就園率が知りたい。

(事務局)

- ▶ 待機児童の定義によって、全体として受け入れる枠はあるが、入園希望の園を特定されると空きがないという場合は、待機児童にはカウントされない。

(委員)

定義はわかっているが、現実問題として、燕市の一番西側に住所のある方が、仕事もあるのに東側にある園に子どもを預けに来られるかというとなかなか難しい。保護者が各園に電話して確かめるのはたいへんだろうから、ネットか何かですぐに見られるようなシステムが便利なのではないか。

(事務局)

- ▶ インターネットの時代に情報を収集しやすいような取組を進めていかなければなら

らないと考えているので、ご要望としてお聞きしておく。また、市内には、企業主導型が1園あるが、先日の段階では、今年度入園されたお子さんはいないと聞いている。昨年度まで園児はいたが、4月に公立園などに転園されるケースがあったと聞いている。

また、小規模保育事業は定員19人のところ9人が入園しており、今後も7月と8月にも0歳児を中心に入園予定があると聞いている。

(委員)

6頁の放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)について、児童数の推移によって学校施設を活用するなど記載がある。私は、早くこの方向に移行したほうがいい、それが燕市の魅力につながると以前から知っているが、今後、どのように考えているか。

(事務局)

▶ 第1期計画では、なかまの会が児童クラブへ移行するまでの間、なかまの会として運営することとなっている。児童クラブへの入会希望もあるし、なかまの会への入会希望もある。児童クラブは、おやつ代を含めて月額8,000円の利用料を保護者に負担していただくが、なかまの会は保険料負担だけで原則無料である。第2期計画の中でどういう方向性をとるか、一緒に考えていきたい。

(委員)

私は、なかまの会を希望される大きな理由の一つに、児童クラブだと夏の暑さや冬の大雪の中、1年生や2年生でも1キロも歩いて行かなくてはならないという不便さがあると感じている。なかまの会は学校内にあるので、利便性が高い。一般的になかまの会と児童クラブは学区によって決まるので、その違いはわかりにくい。

(委員)

燕東小学校は東公民館を使って、燕西小学校は旧燕西幼稚園を改築して放課後児童クラブが実施されている。燕南小学校は今年1年生が60人いて、なかまの会の希望者が多い。南のなかまの会は、専用の1部屋と体育館を使用できるが、私は、放課後児童クラブになることを願っている。放課後児童クラブは、しっかりした指導者がいて勉強を見たり、おやつをあげたり、それなりの指導をしている。なかまの会はお金がかからないので、誰でも申し込みに行けて、宿題をして、体育館で遊んでいる。なかまの会だと気楽に考えて、日によって行く行かないが変わるので下校ボランティアをした時、1年生の帰る子と帰らない子の把握が大変だった。燕市は全部が児童クラブになってほしいと思う。

(委員)

うちは大関小学校なので、なかまの会だ。閉鎖的でもないし、先生は目の行き届く範囲で見ってくれるので、私も、子どもが行きたいという時だけ、行けばいいと軽い気持ちでいる。料金もかからないし、そういうお母さんもいっぱいいると思うので、一概に児童クラブがいいというよりも、なかまの会のいいところをみてほしい。

(委員)

そもそも児童クラブは運営規則のようなものが前から整備されていると思うが、なかまの会にはそれがあるのか。そこが問題だと思う。私も充実したなかまの会を知っていて評判がいい。管理者の考え方一つというようなことがあるのかと思う。児童クラブのほうは運営規則があってそこから外れることができないから、大体平均値である。

(委員)

長岡市は児童クラブが無料であるが、燕市は無料にできないのか。

(事務局)

▶ 児童クラブの利用については、受益者負担をお願いしている。金額は各団体で決められている。今回、要望という形でお聞きはするが、無料というのは難しいので、それぞれご負担いただくことでお願いしたい。

(会長)

今、皆さんから貴重なご意見をいただいたので、事務局のほうで整理をお願いしたい。ただ1つ、ネックになってくるのが質の問題だ。量の問題もあるが、質の問題「何を提供していくか」という観点からも検討が必要だ。

(委員)

病児・病後児保育について、1日の平均利用数も大切なことだが、インフルエンザが流行ったときなど、マックスの利用が何人だったかということも大事だ。

(事務局)

▶ 病児・病後児保育について、定員は8人であるが、1月の後半に早朝・延長の利用者も含めて、利用者は11人になった。1月は11人の利用が3日間あった。だいたいインフルエンザなど感染症によるケースである。

(委員)

子どもが具合の悪い時は、親が仕事を休める環境が一番いいと思うが、現状はいろいろな問題がある。本当は、病児・病後児保育がなくてすむ世の中が一番いい。

(会長)

地域子育て支援事業というのは、人数のとらえ方や何を論じるかで、見方が違ってくるので、整理していただきたい。いろいろいただいた意見をもとに、事務局のほうで作業していただくことになる。あとで、お気づきの点があれば事務局へ話をしてほしい。

## (2) 第2期燕市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査について

<事務局から資料2-1、2-2、2-3の説明>

<質疑応答>

(委員)

病児・病後児保育室について、風邪や熱で休むと母である私が休んでみる人が多いが、吉田だけでなく、施設が増える要素があるのか。吉田まで送っていくのが大変だ。地区ごとにできないかなと思う。

(会長)

▶ ご意見として伺っておくことでよろしいか。地区ごとにあると利用者にとってはありがたく、ご意見のとおりだと思う。他に、働き方の観点で何かないか。

(委員)

アンケートで、回答なしが就学前で約300件、対前回で若干減ってはいるものの、回答をしないものから回答を得られる努力を更に進めることが重要ではないか。商工会議所で、会員事業所のアンケートをした時は、実際、職員が出向いてヒアリングを行った。忙しいだろうが、そうすることで新しい気づきや発見もでてくるので検討してほしい。

(会長)

▶ 燕市は回答率が高い。他の自治体も結果が出ているが、第2期のせいか、回答率はもっと低い。できるだけ高い数字を求めたいという気持ちはわかるが、皆さんお忙

しいとか、特に子育て中の方たちはハードルが高い。就学前で75%の回答率は、関心を持って答えてくださる工夫ができたということだと感じている。中身についてのご意見はないか。

(委員)

先ほど、回答の中で受益者負担という答えがあったが、市長が望む人口減少対策を含めるならば、負担額の軽減を含めて他地域との差別化で、燕市の優位性を見い出せるような支援措置をお願いできれば、幸いだと思う。

(会長)

▶ 前回調査に比べて、働いている母親が増加傾向にあること、保育ニーズも高まっていくであろうこと、子育てしやすい環境整備のところで、放課後児童クラブやなかまの会など児童館関係のニーズが高いこと、それは皆さんの意見とも一致することがわかった。

### (3) 第2期燕市子ども・子育て支援事業計画(案)について

<事務局から資料3の説明>

<質疑応答>

(委員)

平成31年度が終わった時点で、第1期の成果などがつけ加えられるのか。また、「4 子どもの学ぶ力と生きる力を育むために」の中の「②家庭や地域の教育力の向上」のところに、「子ども会と自治会の連携」というような項目を入れたらどうか。私は、燕東小学校区で多くの子ども会がある中で、自治会との連携、ラジオ体操に地域の方々も来てくださるし、自治会との連携に取り組んでいったら、地域での子どもたちの活動が活発化するのではないか。

(事務局)

▶ 第1期の平成31年度までの結果や評価は、まだ入れ込んでいない。進捗状況を踏まえて新しい計画をつくっていききたい。最終的な31年度までのものは、次の年度の会議の中でお示ししたい。2番目の自治会と子ども会との連携については、私自身が小さいころも連携があった。この中に含めることも検討の1つとしていききたい。

(会長)

体系図が昨年度のものになるが、たくさん事業が入っているので、ゆっくり目を通していただいて、事業の提案などがあれば、確認していただきたい。そのほか、計画をつくっていくうえでの方向性などはどうか。

(委員)

「2 ③児童館を拠点とした児童と地域との交流の推進」のところの、⑤まちづくり協議会との連携について、私が所属する第2まちづくり協議会では、10月に防災訓練がある。燕東小と燕南小の子どもたちにも参加してもらって、消火器で火を消したりするし、3年前にはしご車にのせてもらったりする経験もした。まちづくり協議会とつながっているのがわかって、市全体で子どもたちを育てることが大事だと思った。

(会長)

今後は計画をつくっていくうえで、地域でかかわって子育てをしていくのに必要なことなどご意見をいただきたい。

(委員)

第2期事業計画の「5 子育て家庭の安心のために」の中に、近年、通学路等における事故などが含まれているが、防犯カメラの設置に関する検討がないのかなと感じた。今回の会議でそういうことを話していきたいと思っている、そういう認識でよろしいか。

(事務局)

➤ 今回示した体系図の中で、安心安全のまちづくりの中で議論いただくことになる。

(会長)

これは、第1期の体系図であるので、これを踏襲しつつといいながら、その中で新しい項目を加えたり、少し変えたいということが出てきたりすると思うが、今、いただいた項目については、そこをお願いしたい。そのほかにお気づきの点があれば事務局へ、または次回以降の会議で発言いただきたい。これで予定していた3件の議題を終了する。

## 6 報告

### (1) 幼児教育・保育の無償化について

<事務局から資料4に基づき説明>

(会長)

委員の皆さんから、質問などがあれば、お願いしたい。

(委員)

前回の施設型給付へ移行するときは、市町村の裁量が大きかった。今回はどのようになるのかわからないが、早く情報をいただいて内容を吟味する時間をいただきたい。前回は、各園に流れた情報が先行したが、今回は行政が早い。決まったことしかわからない。早い段階で情報をいただいて、内容について相談させていただける部分があるのであれば相談させてもらいたい。

(事務局)

➤ 毎月の園長会議で、ある程度議論できる時間をとりたい。

(委員)

保護者の方から、無償化の問い合わせがたくさんきている。私は、まだ市からお話が来ないので、3歳以上かなというような大体のことしか話していない。市のほうでつくった文書をいただければ、それにそって同じよう説明をさせていただきたい。

(事務局)

➤ ある程度保護者の方が知っておきたいような内容については、Q&A方式で継続的に少しずつ、わかりやすい内容でお知らせしていきたい。

(会長)

保護者の方が混乱しないような道筋でやれるといいのかなと思っていた。わかり次第、いろいろな情報共有を図っていただきたい。

## 7 その他

<事務局から次期開催の日程を説明>

## 8 閉 会

(会長)

それでは、本日の議事はすべて終わったので、議長の職を解かせていただく。

(事務局)

以上をもって、第1回燕市子ども・子育て会議を閉会する。